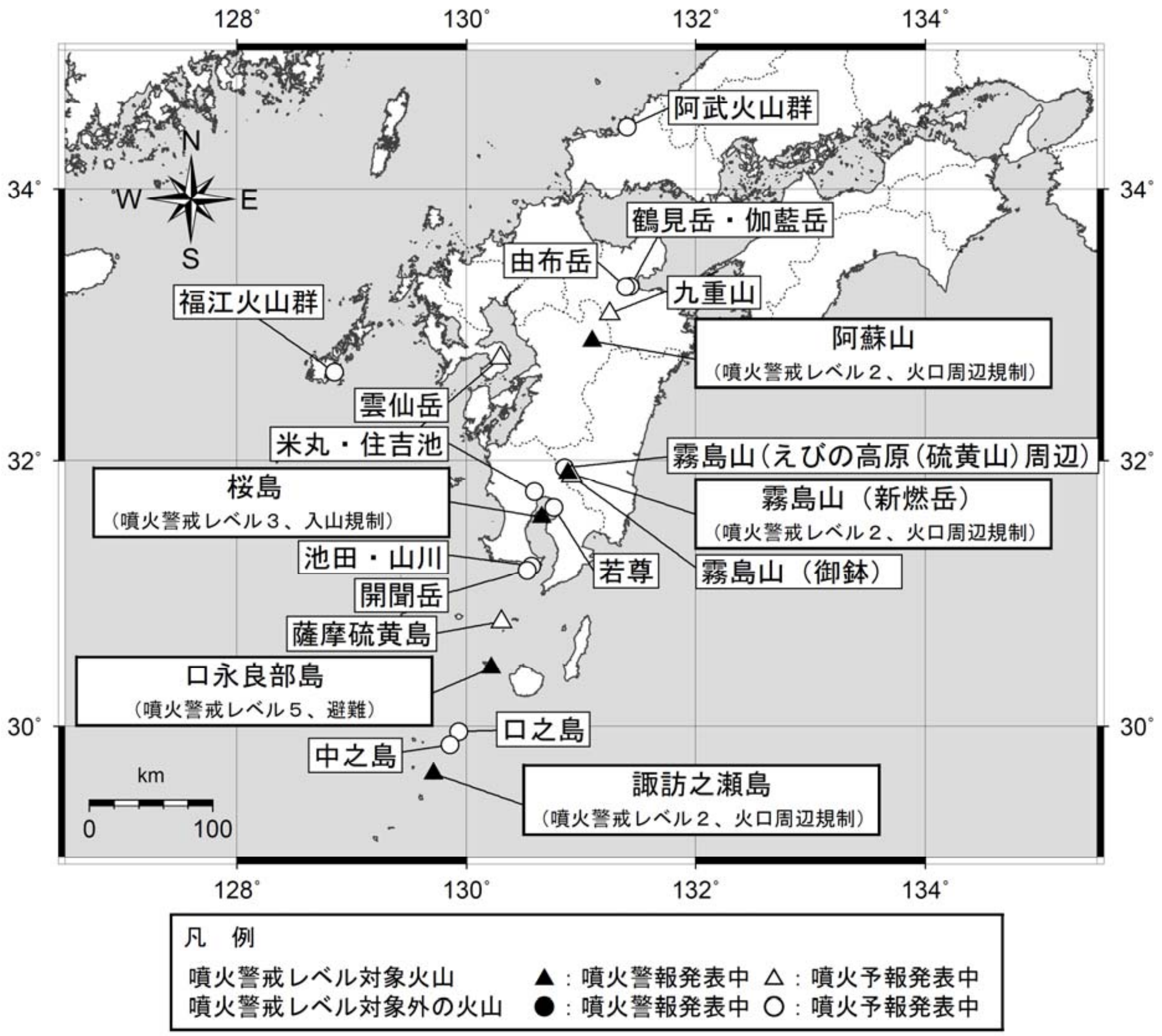
管内月間火山概況（平成 27 年５月）

福 岡 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（５月 31 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル５（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル３(入山規制)	桜島
	レベル２(火口周辺規制)	阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル１(活火山であることに留意)	九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	阿武（あぶ）火山群、鶴見岳・伽藍（がらん）岳、由布岳、福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、米丸・住吉池、若尊（わかみこ）、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 27 年６月分）は平成 27 年７月８日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、５月１日に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除しました。

口永良部島では、５月 29 日に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から５（避難）に引き上げました。

その他の予報警報事項に変更はありません。

つるみだけ　がらんだけ

鶴見岳・伽藍岳［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

くじゅうさん

九重山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

あそさん

阿蘇山［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

中岳第一火口では、21 日まで断続的に噴火が発生しました。１日には、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000m以上に上がりました。

火山性微動は概ね振幅の大きな状態で継続しました。３日に振幅の大きな火山性微動が発生し、南阿蘇村中松で震度１を観測しました。翌日（４日）の現地調査で、この火山性微動に伴って噴出したと推定される降灰の痕跡を確認しています。

また、８日に南阿蘇村中松で震度３を観測する火山性地震が発生しました。

中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が１km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。

うんぜんだけ

雲仙岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、今後の火山活動の推移に注意してください。

きりしまやま　しんもえだけ

霧島山（新燃岳）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は減少しましたが、３月中旬以前よりもやや多い状況が続いています。

GNSS 連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向が見られていましたが、2015 年１月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降る恐れがあるため注意してください。

降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

きりしまやま　おはち

霧島山（御鉢）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）［噴火予報（活火山であることに留意）］←5月1日に火口周辺警報（火口周辺危険）を解除

えびの高原（硫黄山）周辺では、2013 年 12 月頃から火山性地震の多い状態が続いていましたが、2015 年４月頃から少ない状態となっています。2014 年８月 20 日には、硫黄山付近が震源とみられる火山性微動が発生しましたが、その後は発生していません。GNSS 連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013 年 12 月頃からみられた地盤の伸びの傾向は、2015 年１月頃から停滞しています。火山活動によると考えられる傾斜変動は認められません。また、噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では熱異常域は認められません。硫黄山周辺の全磁力繰り返し観測でも、地下の熱活動の高まりは認められません。

以上のことから、えびの高原（硫黄山）周辺の火山活動は低下しており、硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、５月１日 10 時 00 分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除しました。

活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

桜島［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］

昭和火口では、爆発的噴火が 169 回発生するなど、活発な噴火活動が継続しました。

桜島島内の伸縮計では、2015 年１月１日頃から山体の膨張と考えられる変化が継続しています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

口永良部島［噴火警報（噴火警戒レベル５、避難）及び火山現象に関する海上警報］←5月29日に噴火警戒レベルを３（入山規制）から５（避難）に引上げ

口永良部島では 29 日 09 時 59 分に爆発的噴火が発生し、黒灰色の噴煙が火口縁上 9,000m以上に上がりました。この噴火に伴い火砕流が発生し、新岳の北西側（向江浜地区）では海岸にまで達しました。このため、同日 10 時 07 分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から５（避難）に引上げました。また、同日 10 時 34 分に火山現象に関する海上警報を発表しました。今回の噴火は前回（2014 年８月３日）の噴火を超える規模と考えられます。

同日、国土交通省九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、火砕流は新岳火口からほぼ全方位に流れており、新岳北西側への流下が顕著であることを確認しました。また、新岳南西側及び南東側でも中腹まで流下しているのを確認しました。

噴火発生直後には、火山性地震が増加しましたが、同日 13 時以降は少ない状態となっています。

今後も、５月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

屋久島町の避難等の指示に従ってください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

降雨時には土石流の可能性があるため注意してください。

新岳火口から半径２海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがありますので、噴火に警戒してください。

諏訪之瀬島［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

御岳火口では、５日と 17 日にごく小規模な噴火が発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

平成 19 年 12 月１日に火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）を発表しました。その後、警報事項に変更はありません。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。